

彙報

会長 福井直樹

——常任委員会——

2023年度第2回常任委員会

日時：2023年10月28日（土）13:00～16:00

場所：オンライン

出席者：福井直樹（会長）有田節子，奥 聡，北原真冬，桐生和幸，酒井 弘，菅原彩加，成田広樹，原田なをみ（以上，常任委員），石井 透（事務局長）

オブザーバー：呉人 恵（編集委員長），松浦年男（大会運営委員長），内藤真帆（広報委員長），木山幸子（夏期講座委員長），佐々木冠（国際発信力強化小委員長），秋庭大悟，小林ゆきの（以上，事務局委員）

欠席：上山あゆみ，太田真理，北原久嗣

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第168回大会（2024年度春季大会）：2024年6月29日～30日，国際基督教大学（大会実行委員長：Lee, Seunghun 氏）
 - 第169回大会（2024年度秋季大会）：2024年11月9日～10日，北海道大学（大会実行委員長：奥 聡氏）
- (3) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 事務局からの報告
 1. 選挙の日程について

2024年度からの日本言語学会新役員の選挙のスケジュールに関して説明があった。
 2. 外部団体の活動への協力について

2023年10月14日（土）～2023年10

月15日（日）に開催された文化庁「令和5年度危機的な状況にある言語・方言サミット（与那国島大会）」の後援を行ったことが報告された。

3. 韓国言語学会からの招待講演依頼について

韓国言語学会より福井会長へ招待講演の依頼があり，代理として酒井 弘氏を派遣することが報告された。

4. 「未来の学術振興構想（2023年版）」について

日本言語学会から応募した「学術の中長期研究戦略」の提言が，日本学術会議「未来の学術振興構想（2023年版）」に掲載されることが決定したことが報告された。

[審議事項]

- (1) 大会発表応募要旨作成要項ならびに予稿集原稿作成要項の改正について

大会運営委員会より提案された大会発表応募要旨作成要項ならびに予稿集原稿作成要項の改正案について審議を行い，それを承認した。
- (2) 日本言語学オリンピック委員会からのバナー貼り付けの依頼について

「外部団体の活動への協力に関する規程」における「広報協力」にあたることで承認した。
- (3) 聴覚障害を有する会員への支援について
 - ・第167回大会における1件の手話通訳支援申込みについて承認した。
 - ・2024年度以降の大会における聴覚支援に関して，様々な意見が検討され，音声認識による文字通訳に移行することが承認された。

——評議員会——

2023年度第2回評議員会

日時：2023年11月11日（土）10:30～12:20

場所：同志社大学京田辺キャンパス 夢館 MK101 教室

出席者：福井直樹（会長）、青木博史、有田節子、五十嵐陽介、石井 透、上山あゆみ、内堀朝子、江口 正、江畑冬生、奥 聡、尾谷昌則、小野 創、風間伸次郎、加藤重広、河内一博、岸本秀樹、北原久嗣、久保智之、窪菌晴夫、呉人恵、小泉政利、小林正人、酒井 弘、佐々木冠、定延利之、杉崎鉦司、田窪行則、竹沢幸一、千田俊太郎、塚本秀樹、長屋尚典、那須川訓也、新田哲夫、長谷川信子、広瀬友紀、益岡隆志、松浦年男、松本 曜、宮本陽一、由本陽子、吉田和彦（以上、評議員 40 名）

委任状：23 名

オブザーバー：梶 茂樹（顧問）、藤代 節、米田信子（以上、会計監査委員）、内藤真帆（広報委員長）、堀 博文（夏期講座委員長代理）、原田なをみ（聴覚支援担当常任委員）、秋庭大悟、小林ゆきの（以上、事務局委員）

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第 168 回大会（2024 年度春季大会）：2024 年 6 月 29 日～30 日、国際基督教大学（大会実行委員長：Lee, Seunghun 氏）
 - 第 169 回大会（2024 年度秋季大会）：2024 年 11 月 9 日～10 日、北海道大学（大会実行委員長：奥 聡氏）
- (3) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 事務局からの報告
 1. 選挙の日程について

2024 年度からの日本言語学会新役員の選挙のスケジュールに関して説明があった。
 2. 外部団体の活動への協力について

2023 年 10 月 14 日（土）～2023 年 10 月 15 日（日）に開催された文化庁「令和 5 年度危機的な状況にある言語・方言

サミット（与那国島大会）」の後援を行ったことが報告された。

3. 韓国言語学会からの招待講演依頼について

韓国言語学会より福井会長へ招待講演の依頼があり、代理として酒井 弘氏を派遣することが報告された。
4. 「未来の学術振興構想（2023 年版）」について

日本言語学会から応募した「学術の中長期研究戦略」の提言が、日本学術会議「未来の学術振興構想（2023 年版）」に掲載されることが決定したことが報告された。

[審議事項]

- (1) 聴覚障害を有する会員への支援について
 - ・第 167 回大会における 1 件の手話通訳支援申込みについて承認した。
 - ・2024 年度以降の大会における聴覚支援に関して、様々な意見が検討され、音声認識による文字通訳に移行することが承認された。

——編集委員会——

- (1) 現委員会の担当予定業務について

現委員会は、165 号の刊行ならびに、166 号の入稿までを担当し、166 号の刊行以降は、次期委員会に引き継ぐ。

	165 号	166 号
特集告知		2022.9.1
特集締切		2023.8.31
入稿	2023.10.20	2024.4.20
刊行	2024.1.25	2024.7.25
備考		特集（認知言語学）

- (2) 165 号掲載予定論文について

『言語研究』165 号（2024 年 1 月刊行）への掲載は、一般論文 4 本を予定している。
- (3) 166 号特集論文「認知言語学の現在と今後の展望」の投稿状況について

懲憑 2 本, 一般 15 本の投稿があり, 目下, 審査中である。

- (4) 168 号特集論文の募集について
168 号特集論文は, 「世界の言語音の多様性」というテーマで募集を開始した。
- (5) その他
2023 年度 (2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日) の投稿状況, ならびに現委員会任期期間中 (2021 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日) に査読をお願いした方々の一覧は, 166 号に掲載する予定である。

——大会運営委員会——

2023 年度第 2 回大会運営委員会

日 時: 2023 年 9 月 12 日 (火) 11:00 ~ 12:30

場 所: オンライン

出席者: 松浦年男 (大会運営委員長), 白井聡子, 浅原正幸, 衣畑智秀, 黒木邦彦, 甲斐ますみ, 小町将之, 矢野雅貴, 田川拓海, 吉田健二

[審議事項]

- (1) 第 167 回大会における研究発表の採否について審議した。応募用紙の審査結果に基づき, 口頭発表 20 件, ポスター発表 43 件の計 63 件 (研究発表全体で応募 84 件), ワークショップ 4 件 (応募 4 件) を採択することとした。
- (2) 第 167 回大会のプログラムを編成し, 採択された口頭発表を 4 つの会場に割り振り, それぞれの会場の司会者を決定した。また, 役割分担と今後の大会開催予定を確認した。
- (3) 大会発表応募要旨作成要項 (応募時) ならびに予稿集原稿作成要項 (採用者のみ) を改正することにした。
- (4) 第 168 回大会の形式について, 口頭発表を最大 4 会場とし, ポスター発表を中心に構成することにした。また, 参加者交流会の形式を継続することにした。

——広報委員会——

- (1) 学会ウェブサイトの学会からのお知らせ (大会情報, 学会プロジェクト, 『言語研究』など) と学会関連情報 (公募情報, 研究会情報など) を随時更新した。
- (2) Twitter と Facebook で, 学会からのお知らせを随時発信した。
- (3) YouTube チャンネルで大会公開シンポジウムの動画を公開した。
- (4) ウェブサイトの情報に更新漏れがないか等の確認・修正を行なった。

——学会賞選考委員会——

2022 年度第 2 回学会賞選考委員会

日 時: 2023 年 4 月 29 日～2023 年 5 月 2 日

開催方法: メール審議

[審議事項]

第 165 回大会における大会発表賞の選考を行い, 1 名の受賞を決定した。

2023 年度第 1 回学会賞選考委員会

日 時: 2023 年 8 月 22 日～8 月 29 日

開催方法: メール審議

[審議事項]

第 166 回大会における大会発表賞の選考を行い, 2 名の受賞を決定した。

2023 年度第 2 回学会賞選考委員会

日 時: 2023 年 9 月 25 日～2023 年 10 月 2 日

開催方法: メール審議

[審議事項]

2023 年度の論文賞の選考を行い, 1 名の受賞を決定した。

なお第 162 回, 第 163 回, 第 164 回, 第 165 回, 第 166 回, 第 167 回大会における学会発表賞審査において, 下記の方々に貴重なご協力を賜ったことに感謝したい (名前の配列は五十音順)。

青木博史, 青柳 宏, アクマタリエワ・ジャクシルク, 浅原正幸, 荒川慎太郎, 有田節子, 五十嵐陽介, 磯部美和, 伊藤さとみ, 岩佐一枝, 上山あゆみ, 内海敦子, 大崎紀子, 大塚祐子, 小川晋史, 小野智香子, 小野尚之, 風間伸次郎, 岸本秀樹, 北田伸一, 金 善美, 桐生和幸, 久保智之, 窪蘭晴夫, 窪田悠介, 藏藤健雄, 栗林 裕, 呉人 恵, 黒木邦彦, 小泉政利, 小磯花絵, 郷路拓也, 酒井 弘, 佐藤陽介, 澤田 治, 澤田英夫, 塩原朝子, 島田雅晴, 下地理則, 白井聡子, 沈 力, 杉岡洋子, 杉崎鉦司, 高橋康徳, 田口善久, 田中英理, 田中 大, 田村早苗, 千田俊太郎, 時崎久夫, 時本真吾, 中尾千鶴, 中川 裕 (東京外国語大学), 長崎 郁, 中谷健太郎, 長屋尚典, 那須昭夫, 西山國雄, 林 徹, 林 範彦, 原由理枝, 原田なをみ, 平山真奈美, プガエワ・アンナ, 藤代 節, 堀 博文, 松井理直, 松浦年男, 藪 司郎, 山本秀樹, 吉田和彦, 吉田健二, 米田信子, 米山聖子, 渡辺 己

——夏期講座委員会——

(1) 夏期講座 2024

2024年8月26日(月)―31日(土)に対面開催が決定している夏期講座2024(神戸大学)について, 12科目の科目と担当講師が以下の通り決定した。

生成文法(初級)	高橋将一 青山学院大学
生成文法(中上級)	阿部潤 東北学院大学名誉教授
意味論	矢田部修一 東京大学
音韻論	上田功 名古屋外国語大学
音声学	安藤智子 富山大学
心理言語学	広瀬友紀 東京大学

認知言語学	秋田喜美 名古屋大学
進化言語学	藤田耕司 京都大学名誉教授
フィールド言語学	倉部慶太 東京外国語大学
歴史言語学	平子達也 南山大学
日本語文法	堤良一 岡山大学
アイヌ語	アンナ・ブガエバ 東京理科大学

(2) 夏期講座 2026 について

開催校について, 金沢大学で開催することが決定した。

(3) 委員交代

2023年9月末で田中真一(神戸大学)と千田俊太郎(京都大学)の委員2名が退任し, 入江浩司(金沢大学)と林範彦(神戸市外国語大学)の2名が新委員として就任した。

——倫理委員会——

(1) 令和5(2023)年度10月からの倫理委員

委員長	奥 聡 2023/10/01 ~ 2024/09/30
副委員長	小野 創 2023/10/01 ~ 2024/09/30
委員	木津弥佳 2023/04/01 ~ 2024/03/30
委員	新沼史和 2023/04/01 ~ 2024/03/30
委員	江口 正 2023/10/01 ~ 2024/03/30
委員	江口清子 2023/10/01 ~ 2024/09/30
委員	窪田悠介 2023/10/01 ~ 2024/09/30
委員	下地賀代子 2023/10/01 ~ 2024/09/30

——国際発信力強化小委員会——

- (1) 日本言語学会論文賞論文4本を英訳している。2023年度末までに Gengo Kenkyu Anthology Vol.4として公開する予定である。
- (2) 2023年12月2日に日本言語学会・国際情報発信強化ワークショップ(第四回)「日本語学論文を英語で書くための豆知識—学術用語とグロスを中心に」を企画している。
- (3) 参考文献欄のローマ字化を2023年度内に完了させるために作業を続けている。

第 167 回大会

期日 2023 年 11 月 11 日 (土)・12 日 (日)

会場 同志社大学京田辺キャンパス 夢告館 (京都府京田辺市)

公開シンポジウム 11 月 12 日 (日) 13:00 ~ 16:00 (3 階 D 会場)

	「語」とは何か?—その多面性を探る」	司会・趣旨説明：沈 力
(S-1)	言語類型論から見た「語」の多面性	長屋 尚典
(S-2)	単音節言語から見た「語」の多面性	沈 力
(S-3)	語彙意味論から見た「語」の多面性	由本 陽子
(S-4)	プロソディーから見た「語」の多面性	窪蘭 晴夫

口頭発表

—第 1 日 (11 月 11 日 (土)) 13:00 ~ 16:00—

◦ A 会場 (MK101 教室)

(A-1)	13:00 ~ カザフ語の <i>siyaqti</i> 「~ようである」は間接証拠性を表すのか	日高 晋介
(A-2)	13:35 ~ ビジ語の分裂活格性	Mjesd'alpa GÜR GD'YEM (Zitong PENG)
(A-3)	14:20 ~ 17 世紀初頭のデンマーク語従属節における副詞句の配置と OV 語順に関する調査—法律文書とレシピ本の比較から—	大西 貴也
(A-4)	14:55 ~ アミ語は本当に能格言語なのか	今西 一太
(A-5)	15:30 ~ サマルカンド・タジク語の過去分詞について	フアイズ・ウザリサ

◦ B 会場 (MK102 教室)

(B-1)	13:00 ~ 宮古語諸方言における前舌的な母音対応とその通時的由来	尹 熙洙
(B-2)	13:35 ~ ニックネームの接尾辞において「かわいい」音韻素性はいくつ必要か?	熊谷 学而
(B-3)	14:20 ~ 日本語における目的語位置での主語の記憶の想起：視線計測からの考察	江村 玲 磯野真之介
(B-4)	14:55 ~ 事象関連磁場 M170 に対する形態素分割と項構造の影響：脳磁図による研究	小泉 政利 田中 陸 深見 伶那 梁井 一樹 山田 絵美 重藤 寛史 太田 真理
(B-5)	15:30 ~ カタカナ語の視覚的処理における迅速な音韻活性：閾下ブライミングを用いた事象関連電位による検証	加藤 志織 程 レイ雅 熊 可欣 小泉 政利 木山 幸子

◦ C 会場 (MK301 教室)

(C-1)	13:00 ~ 時制節を越えて移動する主語の特性について	北田 伸一
(C-2)	13:35 ~ 「太郎の」のような日本語の省略的 NP 再考	川口 颯午
(C-3)	14:20 ~ 日本語の動詞的名詞に対する副詞的修飾とイベント項	尾崎 慶 安井美代子
(C-4)	14:55 ~ Exhaustification and presupposition: Argument for weak negation	Yusuke YAGI
(C-5)	15:30 ~ On semantics of two types of wh-exclamatives in Japanese: Interaction with predicates of personal taste	Katsumasa IRO Shun IHARA

◦ D 会場 (MK302 教室)

(D-1)	13:00 ~ 類義の英語イディオムの構文と構成的形式の選択の動機—死に関連するイディオムを用いて—	稲生 秀俊
-------	--	-------

(D-2) 13:35 ~	丁寧語の類型論	山田 彬堯
(D-3) 14:20 ~	中国語母語話者の文末助詞の産出傾向—命題内容・性差・世代に応じた決定木分析—	宋 歌 木山 幸子
(D-4) 14:55 ~	Verb echo answer <i>u</i> in Taiwanese Southern Min	Tingchi Wei
(D-5) 15:30 ~	中国語の形容詞における原級と比較級の統語的区別	郭 楊

ポスター発表

—第1日(11月11日(土)) 16:15 ~ 17:45—

◦PA会場 (MK201教室)

(PA-1)	複合語地名の分布から見る連濁促進・抑制条件の地域差	平井偉在耶
(PA-2)	ウクライナ語の狭母音化における中和現象	渡部 直也
(PA-3)	現代日本語の自然会話における母音の非語彙的な延伸の位置と切れ続き：形容詞の強調の場合	韓 叡池
(PA-4)	助数詞<つ>または<個>を用いて数えられている対象の特徴に関する分析—『日本語日常会話コーパス』を使用した実態調査—	山本 晃子
(PA-5)	児童詩における学年別の特徴の分析	加藤 恵梨
(PA-6)	中国語の「喝酔」構文の構造的多義性と逆行束縛	岳 昱澎 小川 芳樹
(PA-7)	The scattered deletion in Chinese unaccusative split argument constructions	Yelin Gao
(PA-8)	VN スル構文の口語表現における格助詞省略	杉村 美奈
(PA-9)	<i>that</i> 痕跡効果の方言差について	末永 広大
(PA-10)	ラベリングと外在化の関わり	宮元 創
(PA-11)	ティディム語における音韻語の認定とその基準—[N+V] 動詞句と [N+V] 複合語からの考察—	周 杜海 チンガリヤン
(PA-12)	A descriptive study of an indiscriminative NPI, “indeterminate- <i>bari</i> ”, in Kagawa Japanese	Shiori IKAWA
(PA-13)	3層分裂 VP 構造に基づく動作主の表示—北海道方言ラサル構文を例として—	七条 乙衣
(PA-14)	文接続の類型論—等位接続と副詞節の間に潜む一般性の解明を目指して—	水野 庄吾

◦PB会場 (MK202教室)

(PB-1)	チュヴァシ語における部分構造：格標示と数の一致	菱山 湧人
(PB-2)	テシマウは本当に完了のアスペクト形式なのか	中谷健太郎
(PB-3)	比較基準を表すカラ格についての一考察	松本 曜 氏家 啓吾 リスマリスラティ
(PB-4)	日常会話コーパスにおける文末表現「～って」の使い分けと音調について—大家族関係会話の事例を中心に—	
(PB-5)	ラップで韻を踏む語におけるアクセントの効果の実験的検討	有賀 照道 広瀬 友紀
(PB-6)	トルコ語の伝聞の接語 $=_{(y)}mI\int$ が持つ時制について	網谷 晃樹
(PB-7)	AUTHOR FOR WORKS 再考	角出 凱紀
(PB-8)	事態における参与者の認知的際立ちと文処理のメカニズム—視覚世界パラダイムによる検証	菅谷 友亮
(PB-9)	日本手話(愛媛方言)において述語を形成する主要部に標示される行動RSについて	内堀 朝子 上田由紀子
(PB-10)	日本語の「と」等位接続構造における投射の問題：統語と意味のインターフェイス	山田 敏幸

- (PB-11) 日本語の文を先行詞とする「それ」の表層照応～項省略の観点から 笠井 源
- (PB-12) Tough 構文主語の再構築と再統合 前澤 大樹
- (PB-13) ECM, raising-to-object, or none of the above? Pettitward's (1998) challenge revisited Yosuke SARO
- (PB-14) トートロジーにおける評価的意味と譲歩性 小野 瞳
井原 駿

◦ PC 会場 (MK203 教室)

- (PC-1) 属格項認可条件：初期研究 新沼 史和
Lina BAO
牧 秀樹
宮崎 順大
漆原 朗子
- (PC-2) オリヤ語の名詞句において格標識が名詞と一致を示す 山部 順治
- (PC-3) 中間的な強さの否定極性項目の認可子としての「～損なう」 長谷部郁子
- (PC-4) 屈折と派生の間にある韓国語の副詞化接辞「-i」一分散形態論による分析 葉 晨傑
- (PC-5) 身体部位の所有表現の形式の多様性とその表現の発達 松藤 薫子
- (PC-6) 日本語関係節文の構造的曖昧性が統語的再解析に与える影響：事象関連電位による検討 野田 晏伎
深江 由衣
山田 絵美
太田 真理
- (PC-7) ブローク・ウェルニッケ失語症話者のコーパスを用いた形容詞比較級の誤用分析 森田 早織
大関 洋平
- (PC-8) 「イタダク疑問文」の行為主体判定に可能態は関係しているか 横林 美祝
- (PC-9) 「くれる」「もらう」における相違一利益共有の観点から一 大園 雄也
- (PC-10) (発表者の事情により、発表取り消しとなりました。)
- (PC-11) 補文標識と等位構造 森山 倭成
- (PC-12) 日本語従属節における時制計算と未来の制限について 中村ちどり
- (PC-13) 日本語のミラティブ標識「なんて」とその埋め込みについて 岡田 大和
- (PC-14) “BE+ 他動詞”完了の外在化条件に関する理論的分析 木村 一馬
- (PC-15) Reconciling the fixed wide scope of *dake* ‘only’ and its association with focus Kaito OZAWA

ワークショップ

—第2日 (11月12日 (日)) 10:00～12:00—

◦ ワークショップ1 (A 会場 MK101 教室)

- (W-1) 統語・音韻部門におけるインターフェイス方略の性質について 企画者・司会者：北田 伸一
- (W-1-1) 統語・音韻インターフェイスの観点から見る連結要素「の」の分布 北田 伸一
- (W-1-2) The Doubly-Filled φ P Filter and Repair by Obliteration: With a Focus on Indonesian *meN-* Yosuke SARO
- (W-1-3) 統語・音韻インターフェイスの観点から見る時制要素 T の具現形：英語とイタリア語を例に 土橋 善仁

◦ ワークショップ2 (B 会場 MK102 教室)

- (W-2) 条件表現形式の談話機能：九州方言を中心に 企画者・司会者：有田 節子

- (W-2-1) 談話資料から見る九州方言条件形式の分布 岩田 美穂
- (W-2-2) 宇佐・中津方言のテカラの周辺 江口 正
- (W-2-3) 長崎県葦路木島方言の「動詞中止形+助詞」による脱従属
化の記述的研究 原田走一郎
- (W-2-4) 条件節の脱従属化：順接仮定条件表現形式「ギ」を中心に 有田 節子
。ワークショップ3 (C会場 MK301教室)
- (W-3) 宮古・八重山諸島のアクセント研究の新展開：その韻律単位と類型
企画者：新田 哲夫
司会：松倉 昂平
コメンテーター：中澤 光平
- (W-3-1) 南琉球の三型体系発見の持つ理論的意義—特に韻律階層に
焦点を当てて— 松森 晶子
- (W-3-2) 南琉球宮古語池間方言における韻律的単位「韻律語」の特
性 五十嵐陽介
- (W-3-3) 動的音韻解釈からみた南琉球宮古諸方言の三型アクセント
体系 新田 哲夫
- (W-3-4) 南琉球八重山語における三型アクセント体系のさらなる報
告 セリックケン
麻生 玲子
。ワークショップ4 (D会場 MK302教室)
- (W-4) 言語類型論の諸問題に対する帰納的アプローチ
—『語学研究所論集』特集データを活用して— 企画者・司会：風間伸次郎
コメンテーター：山本 恭裕
- (W-4-1) 自他交替とヴォイスの相関についての類型論的考察 岡本 進
- (W-4-2) アスペクトと動詞連続に関する類型的考察 風間伸次郎
- (W-4-3) とりたてに関する類型論的考察 小林 剛士
- (W-4-4) 連体修飾に関する類型論的考察 小林 颯

◇退 会

国内通常会員：19名
在外通常会員：1名
国内学生会員：6名
26名

◇入 会

国内通常会員：36名
在外通常会員：3名
国内学生会員：51名
在外学生会員：1名
国内賛助会員：1名
92名



◇本学会評議員の金水敏氏が本年度の文化功労者に選ばれました。本学会として心よりお祝い申し上げます。



◇本学会元会長（現顧問）の柴谷方良氏が第5回人間文化研究機構日本研究国際賞を受賞されました。本学会として心よりお祝い申し上げます。

2023 年度役員

【会長】

福井直樹

【顧問】

上野善道, 影山太郎, 梶茂樹, 窪蘭晴夫,
柴谷方良, 田窪行則, 早田輝洋, 松本克己

【常任委員】

有田節子, 上山あゆみ, 太田真理, 奥 聡,
北原久嗣, 北原真冬, 桐生和幸, 酒井弘,
菅原彩加, 成田広樹, 原田なをみ

【事務局】

石井透 (事務局長), 秋庭大悟, 小林ゆきのの

【評議員 (70名)】

青木博史, 有田節子, 五十嵐陽介, 石井透,
伊藤たかね, 井上優, 上田功, 上山あゆみ,
内堀朝子, 梅谷博之, 江口正, 江畑冬生,
大沢ふよう, 大津由紀雄, 萩野綱男, 奥 聡,
尾谷昌則, 越智正男, 小野尚之, 小野創,
風間伸次郎, 加藤重広, 河内一博, 菊澤律子,
岸本秀樹, 北原久嗣, 木部暢子, Catt Adam,
桐生和幸, 金水敏, 久保智之, 窪蘭晴夫,
窪田悠介, 呉人恵, 小泉政利, 小林正人,
近藤泰弘, 斎藤衛, 酒井弘, 佐々木冠, 定延
利之, 下地理則, 杉崎敏司, 滝浦真人, 田窪
行則, 竹沢幸一, 千田俊太郎, 塚本秀樹,
中川裕 (東京外国語大学), 中谷健太郎,
長屋尚典, 中山俊秀, 那須川訓也, 西村義樹,
新田哲夫, 野田尚史, 長谷川信子, 林 徹,
林範彦, 早津恵美子, 広瀬友紀, 堀江薫,
益岡隆志, 町田健, 松浦年男, 松本曜, 宮本
陽一, 山越康裕, 由本陽子, 吉田和彦

【編集委員会】

呉人恵 (委員長), 青木博史, 安藤智子, 江畑
冬生, 加藤重広, 小西いずみ, 小山哲春,
土橋善仁, 中川裕 (東京外国語大学), 長屋

尚典, 野村益寛, 広瀬友紀, 宮本陽一
[特別編集委員]

Lisa Cheng, Wesley Jacobsen, 金周源, Terje
Lohndal, Andrej Malchukov, Armin Mester,
富岡諭

【大会運営委員会】

松浦年男 (委員長), 浅原正幸, 大滝宏一,
小野智香子, 甲斐ますみ, 衣畑智秀, 黒木
邦彦, 小町将之, 白井聡子, 田川拓海, 矢野
雅貴, 吉田健二, 米山聖子

【広報委員会】

内藤真帆 (委員長), 大関洋平, 児倉徳和 (英
語ページ webmaster), 志波彩子, 杉崎敏司,
中川奈津子, 安永大地 (日本語ページ
webmaster)

【夏期講座委員会】

木山幸子 (委員長), 入江浩司, 内堀朝子,
古賀裕章, 林範彦, 堀博文

【学会賞選考委員会】

酒井弘 (委員長), 五十嵐陽介, 北原真冬,
桐生和幸, 小林正人, 菅原彩加, 成田広樹

【倫理委員会】

奥 聡 (委員長), 小野創 (副委員長), 江口
清子, 江口正, 木津弥佳, 窪田悠介, 下地
賀代子, 新沼史和

【国際発信力強化小委員会】

佐々木冠 (委員長), 李勝勲, 宇都木昭,
倉部慶太, 澤田英夫, 白石英才, 沈 力,
中村涉, 平子達也, 山越康裕

【会計監査委員】

藤代節, 米田信子

